

6月 人権意識啓発と「いじめ撲滅強化月間」

校長 八木澤 龍馬

さいたま市には「さいたま市人権教育及び人権啓発推進本部」という組織があり、市民の人権問題への啓発のために、「人権教育及び人権啓発推進 さいたま市実施計画」を策定しています。

実施計画の目的は、「市民一人ひとりの人権意識の高揚を図ることに視点を置き、『差別をしない』『差別をさせない』『差別をゆるさない』という態度や、『問題を解決していく力』を身に付け、誰もが安心して生活できる人権感覚のあふれた、日本一しあわせを実感できる『さいたま市』の実現を目標とし、人権教育・啓発の取り組みを推進する」、というものです。(さいたま市ホームページより)

学校では人権意識高揚について、道徳や社会科をはじめとした全教育活動に位置付けており、6月は、重点的に取り組むことになっています。その一つ、さいたま市の人権標語コンクールへの応募は、児童が人権やいじめの問題について、深く考える機会となっています。

以下は、さいたま市立小学校の児童全員の応募作品から選ばれた、平成29年度の「最優秀作品」です。
○それいいね きみのいいとこ みつけたよ(1年生) ○ごめんねは 心をとかす おまじない(2年生)
○いじめのめ つんでそだてよ えがおのめ(3年生) ○悪口は 言える軽さと 言われる重さ(4年生)
○仲直り スマホじゃなくて 目と目でね(5年生) ○気をつけて 言葉や態度も 武器になる(6年生)

6月は、「いじめ撲滅強化月間」の月でもあります。児童会を中心に「子どもいじめゼロ委員会」を開き、いじめ撲滅に向けたスローガンを発表して、みんなが安心して生活できる学校を目指します。

昨年も学校だより6月号で、いじめの問題について述べましたが、様々な取組にもかかわらず、残念ながら本校においても、いじめは0になっていません。いじめと思わずに、友だちに意地悪をしてしまうケースがおきています。さらに、他人に嫌な思いをさせてしまうようなことは、学校外でも起きています。悪口や意地悪な行為など、相手を傷つける言動は、だれに対してでも、絶対に認められません。

子どもたちは、間違いに気づけば、行動を正すことができます。相手に嫌な思いをさせる前に、相手の心の痛みを考え、決して悪口を言わない、意地悪をしない心情を育てることが、私たちの目標です。

学校では、人権やいじめについて、5月30日(水)の講話・生活朝会で全校児童にお話をしました。先の「人権教育及び人権啓発推進 さいたま市実施計画」では、人権意識を高め、みんなが住みよい地域社会を目指そうと、市民に広く呼び掛けています。ご家庭でも、人権やいじめについて、機会をとらえてお子様とお話ししていただき、大人も子どもも、「差別をしない、させない、許さない」という実践につなげていけることを願っています。

5月26日(土)、第46回運動会を実施いたしました。前々日の美化活動で校庭の草刈り、当日の自転車置き場の交通整理や、お父さんサポートによる後片付けなど、PTAの皆様が活躍してくださいました。おかげさまで、子どもたちにとって楽しく思い出深い運動会となりましたことに、感謝申し上げます。

今、手元には応援合戦の写真があります。大谷口小学校の子どもたちが、ほぼ全員写っていて、みんな、楽しそうです。よく見ると一人ひとりがだれか、わかるようになります。一人ひとり、親が願いを込めて付けた名前があり、その子の思いがあります。家族がいて、家族がその子を見守っている姿が、想像できます。みんな、というくくりではなく、名前を確かめながら見ていくと、写っている一人ひとりの声が聞こえるような気持ちになってきます。

私たちの周りには、大勢の人がいます。私たち一人ひとりが、周囲の人たち一人ひとりに、それぞれ、思いや生き方があることを慮り、敬意を表すことができるようになれば、人権やいじめの問題の解決に、近づいていくのではないかと思います。いかがでしょうか。